今夏「ゆめあぐり野田」の店頭にはもみ殻牛ふん堆肥による枝豆も

野田市の農業の活性化にも

もみ殻牛ふん堆肥を市内の農家に流通させ、減農薬・減化学肥料栽培が広まれば、自然環境にやさしいばかりでなく、採れた米や野菜に「安心して購入できる安全な農産物」という付加価値を持たせられます。

こうして野田産の農産物をイメージアップさせ、ブランド化を図ることにより、競争力を高め、国内や海外など、ほかの産地に差をつけることができます。

また生産物の売れ行きが伸びたり、高値で取り引きされるようになれば、農家の生産意欲も高まり、魅力ある仕事としても見直され、野田市の農業全体の活性化が期待できます。

エコファーマーに優先して販売

20年度から本格的に生産開始

平成20年には、もみ殻牛ふん堆肥の本格的な生産がスタートしました。9月に農家からのもみ殻回収に着手、10月にはもみ殻を細かく砕いて醗酵しやすくする「もみ殻粉砕施設」も稼働しました。同施設で粉砕されたもみ殻は、酪農家のもとで牛ふんと混ぜられ、良質な堆肥づくりが進んでいます。

また、より多くの農家に堆肥を利用していただくため、酪農家が生産したもみ殻牛ふん堆肥に、各家庭から収穫した剪定枝などを利用して作った堆肥を混ぜて、混合堆肥として供給することも決められ、平成21年1月から、希望する農家への販売を始めています。

野田市農産物ブランド化検討委員会では、将来はさらに生産量を増やし、市内にある畑の4割に堆肥が行きわたるよう計画しています。また、生産された農産物のブランド価値を高めるための流通方法や販売方法も検討しています。